



特定非営利活動法人 防災デザイン研究会



A b o u t U s

活動目的

安全で安心して暮らせるまちづくりは、21世紀の大きなテーマです。中でも地震や大雨などが引き起こす自然災害は、まちに甚大な人的・経済的な被害をもたらします。1995年の阪神・淡路大震災を契機として、わが国の防災は「自然と共生し被害を軽減する社会を目指す」方向へとシフトしました。

こうした観点を踏まえ1996年、「誰にでも分かる防災情報コミュニケーションを目指し、防災に使用できる絵文字（ピクトグラム）を開発し標準化する」という趣旨の元、防災研究者とデザイナーとの協業で「防災ピクトグラム研究会」を立ち上げました。これまでの活動は、防災ピクトグラムの収集と開発をはじめ、避難誘導標識システムの研究開発、啓発コンテンツの研究開発、防災研究に関するウェブサイトの開設、防災マップの研究開発など、数々の防災とデザインに関するプロジェクトに参画し、行政機関、研究機関、教育機関、民間企業などへ提案を行ってきました。中には既に、行政機関や民間企業などに採用されたものもあります。

このような活動のなかで、これまでの研究会成果の社会的な位置付けに対し提案者としての責任を全うするためには、任意ではなく法人格を備えた団体であることが望ましいと考え、また防災研究とデザイン活動を通し、将来にわたり安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与するため、2007年、特定非営利活動法人防災デザイン研究会を設立しました。



事業内容

1. 防災ピクトグラムの調査研究開発事業
2. 防災ピクトグラムの標準化（規格化）活動事業
3. 防災サインシステム調査研究開発事業
4. 防災教育コンテンツ調査研究開発事業
5. 防災情報コンテンツ調査研究開発事業
6. 災害に強い人づくりにおける調査・研究・普及・計画・設計・制作・監理・出版・講演・イベントに係る事業

7. 防災まちづくりにおける調査・研究・普及・計画・設計・制作・監理・出版・講演・イベントに係る事業
8. その他、目的を達成するために必要な事業

M e m b e r s

理事長	林 春男	京都大学防災研究所
副理事長	吉田 治英	(株) GK 京都
	牧 紀男	京都大学防災研究所
	井上 聰	(株) GK 京都
	ト部 兼慎	(株) GK 京都
	出来 信久	積水樹脂(株)
	西野 隆博	(有) アールツー・メディアソリューション
	笠木 淳	(有) アールツー・メディアソリューション
	東田 光裕	日本電信電話(株)
	林 純男	国立民族学博物館
	下境 敏広	(株) パスコ
	田中 聰	富士常葉大学
	山本 晋吾	兵庫県農政環境部
	豊田 匡臣	オルWIN(株)
	谷 優子	オルWIN(株)

S u p p o r t e r s

- 高知県、徳島県、三重県、和歌山県
(津波防災ピクトグラム)
- 国土交通省河川局
- 財団法人河川情報センター
(まるごとまちごとハザードマップ)
- IS0223、日本規格協会
(パブリックウォーニング Color-Coded Alert の提案)
- 東京都、新潟県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県、福岡県
(次の巨大地震に備える高層ビル室内安全ブック)
- 奈良県橿原市
(橿原市総合防災計画、ハザードマップ)
- 京都市
(ハザードマップ)
- 他

C o n t a c t U s

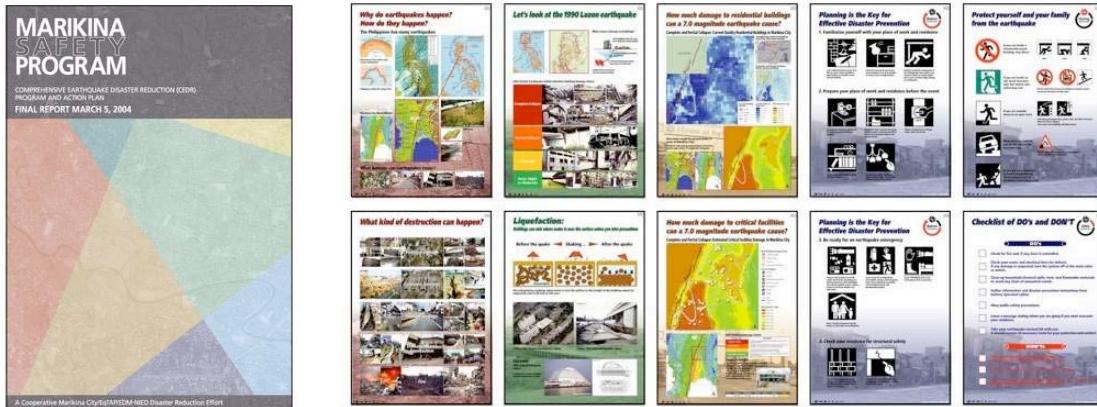
所在地

〒602-0898 京都市上京区相国寺東門前町 657
TEL / FAX. (075) 221-2728

Projects

2004

Philippines MARIKINA CITY SAFETY PROGRAM – FINAL REPORT



2005. 9

津波防災サイン デザインスキーム Ver.1 (大阪府港湾局 泉大津津波啓発（注意）看板)

板面デザイン提案

A 大看板 (平成17年度提案)



A0サイズ

平成17年度設置予定

B 小看板 (16年度完)



A2サイズ

既に数枚設置



2005

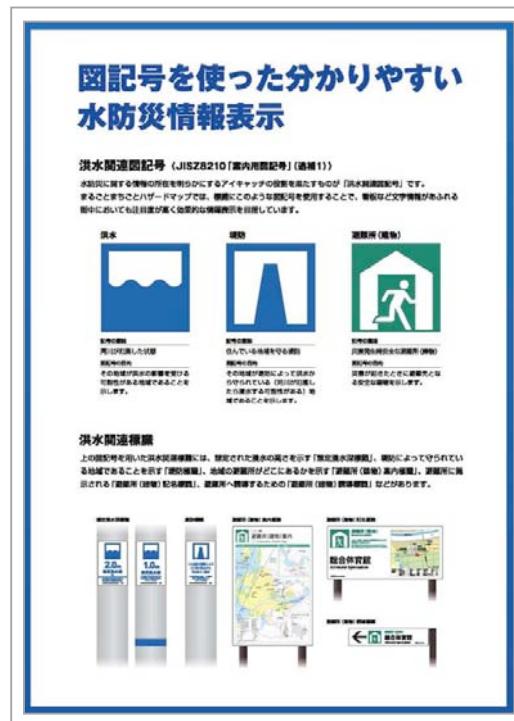
啓発のための取り組み – 和歌山県串本町



Projects

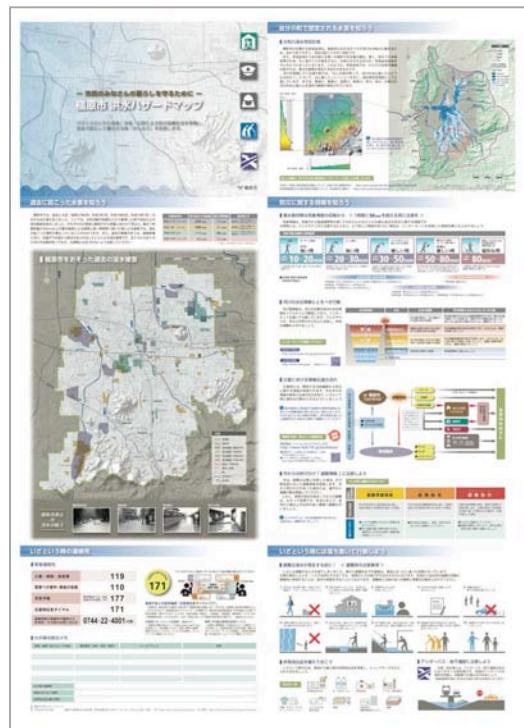
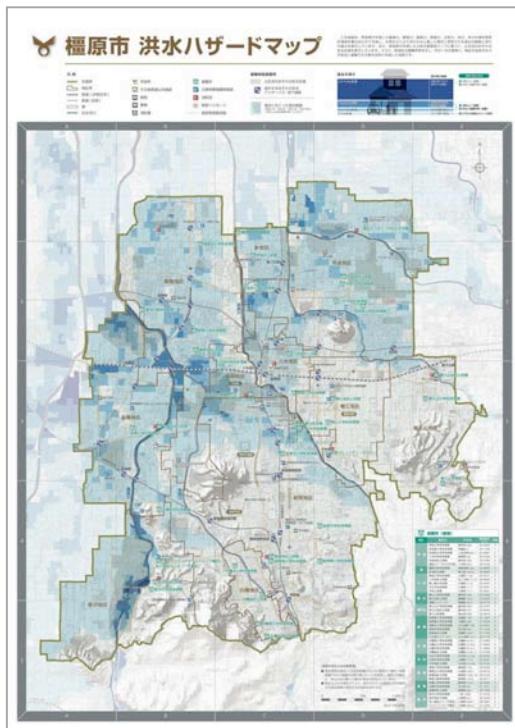
2006

まるごとまちごとハザードマップ



2008. 3

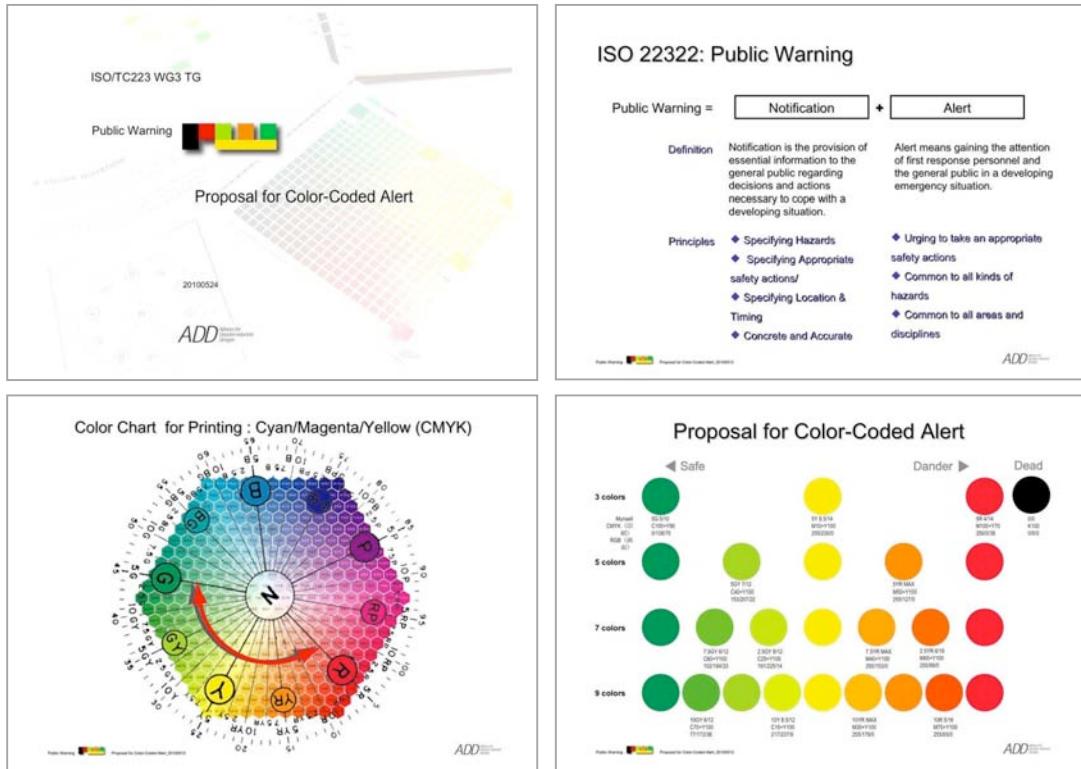
奈良県橿原市 洪水ハザードマップ



Projects

2010. 5

パブリックウォーニング Color-Coded Alert の提案



2010. 12

アンダーパス・パブリックウォーニングシステム



Projects

2011.4

次の巨大地震に備える高層ビル室内安全ブック



2011.8

津波ピクトグラムシステム



Projects

2011.8

津波避難ビル標識についての考え方

津波避難ビル標識についての考え方 110826_picto 研メモ

110831 ADD Alliance for Disaster reduction Designs

原案をうけて

(案)

記名サインのみならず、市民に向けた Notification を意識し、機能するものとしたほうがよい。

- ビルの名称は必要ない→災害時の情報のやりとりのためビル番号を付与する
- 記名サインのみならず、市民に向けた Notification を意識し、機能するものとしたほうがよい。
- 標識を付ける場所、何をつたえるのかが大変重要である。
 - ビル上部／地上入り口付近／まちなか
 - 具体的な行動に結びつくようなメッセージを持つ Notification サインを設置する。
 - Notification サインは地域の「結節点」を考慮し、「面向」に配置する。

Notification：日常学習

いざという時の迅速な行動のため、事前に地域の危険・想定される被害・避難などを住民に知らせる日常的な学習。津波避難の基本的な理解のための情報提供

ビル自体には上部に自物として、「図記号のみ」を設置する。地上に近いものは「文字情報」を入れる。

地域には、面的に行動に結びつくようなメッセージを持つ notification サインを設置する。このセットで展開するのがよい。

●ビル上部 図記号のみ

●ビル（地上付近） 図記号／津波避難ビル（日英／中韓）／避難ビル番号

●地域（結節点） 図記号／津波避難ビル（日英／中韓）／避難ビル番号／分布図など

番号をつける。これは救助の際のコミュニケーションとして
ビルの名称よりも●●市内の津波避難ビルがよい
大阪市 0-001、岸和田市 K-001 など

面的に配置する／分布図などをセットで配置する
具体的な行動に結びつくようなメッセージを持つ notification を意識したもの
にけるきっかけとして、「強いゆれを感じたら」「ゆれ1分」など

2011.12

津波避難ビル サイン標識

津波避難ビル サイン標識 図案 THB-04BL/BR

111221 ADD Alliance for Disaster reduction Designs

THB-04BL

THB-04BR

※ ピクトグラム(図記号)の向きは、避難時の移動方向とあわせ、避難者に理解しやすい表示とします。
※ 津波避難ビルには、市町村単位で各ビルごとに通し番号をうち、サイン標識の下部に番号を表示します。
※ 本デザインについての著作権は、特定非営利活動法人防災デザイン研究会に帰属します。

